

## タイの政治学分野の資料収集について

外山 文子 (筑波大学人文社会系准教授)

国立国会図書館関西館アジア情報室では、蔵書構築の参考とするため、定期的に外部有識者の意見を聴取している。令和4年3月9日、外山文子筑波大学人文社会系准教授を招き、タイの政治学分野の研究において、必要な資料や情報をどのように収集しているのかについて意見聴取を行った。本稿は、関西館アジア情報課でその概要をまとめたものである。

\*【 】は国立国会図書館請求記号。

## 1. 資料の収集方法全般

タイの政治学分野の資料を網羅的に検索できるシステムは未整備であり、複数の手段を組み合わせて探す必要がある。

図書館のシステムで検索する以外にも、知人の研究者に尋ねたり、ソーシャル・ネットワークワーキング・サービス (SNS) で話題になった書籍を見たり、書店をまわるなど、手で探さなければ見つからないことも多い。また、実際に研究に使用する一次資料は非公開である場合も多く、その場合は人づてや古書店から情報を得て入手している。

## 2. よく利用する機関・システム

タイ政治研究に関する資料を検索、あるいは収集する際、利用する候補となる機関には次のようなものがある。

<タイ・バンコクの大学図書館>

○ タムマサート大学図書館

(<https://library.tu.ac.th/>)

○ チュラーロンコーン大学図書館

(<https://www.car.chula.ac.th/>)

いずれも学外者は20バーツ<sup>1</sup>で入館できる。館内のコピー業者に依頼すれば、廉価にコピーしてもらえる。

<アメリカの大学図書館>

○ コーネル大学図書館

(<https://www.library.cornell.edu/>)

一般市民も無料で入館して利用できる。アメ

リカでは一般的なサービスだが、資料をスキャンし、自身のUSBメモリに保存することもできる。

<その他>

○ タイ国立図書館

(<https://www.nlt.go.th/>)

主に古い資料を探す際に利用することが多い。

○ チェンマイ大学図書館

(<https://library.cmu.ac.th/>)

タイ北部の大学で、近年研究の評価が高い。

○ シンガポール国立大学図書館

(<https://nus.edu.sg/nuslibraries/>)

近年、東南アジア地域研究が充実している。

○ 官報のポータルサイト

(<http://www.mratchakitcha.soc.go.th/>)

憲法、法律、規則、過去の革命団布告<sup>2</sup>などをインターネットで参照できる。

## 3. 有用な資料とその収集方法

以下、政治学分野の研究に有用な資料や図書館に収集を期待するものについて、種類別に紹介する。

## (1) 新しい書籍

書籍については、英語であればAmazon.comやAsia books、タイ語であれば現地書店SE-ED等のウェブサイトで見つけられる。候補となる書店サイトには次のようなものがある。

○ Amazon.com

(<https://www.amazon.com/>)

英語資料の検索に用いる。タイ語の書籍はほとんどヒットしない。

○ Asia Books

(<https://www.asiabooks.com/>)

1990年代頃から、タイ関連の英語書籍を探すのに研究者の間でよく使われてきた。

○ SE-ED (<https://www.se-ed.com/>)

タイ国内では最大級の書店。タイに実店舗も

<sup>1</sup> 1バーツは約3.5円 (令和4年3月分報告省令レート)。

<sup>2</sup> 軍事クーデターによって憲法が廃止された後の無憲法期に、クーデターグループが発する布告の総称。(今泉慎也「第1章 タイの議会制度の特徴と立法の推移」今泉慎也編『タイ

の立法過程とその変容』日本貿易振興機構アジア経済研究所, 2010, p.6. <<http://doi.org/10.20561/00048715>>)

※インターネットの最終アクセス日は、2022年8月23日である。

ある。

- タイ紀伊國屋書店<sup>3</sup>  
(<https://thailand.kinokuniya.com/>)  
膨大な日本語、英語、タイ語の書籍を取り扱っており、現地の日系書店としては最もよく出版情報を把握しているかもしれない。
- Kledthai (<https://kledthai.com/>)  
一般書のほか、学術書も扱っている。
- Naiin (<https://www.naiin.com/>)  
ライトノベルなど、一般書が多くヒットする印象がある。

新刊書の情報を得るためには、書店の検索システムを使う以外に、定評のある発行機関の新刊情報を確認しておくのも効果的である。例えば以下のような候補がある。

- <英語・タイ語>
- プラチャーティポック王立学院 (King Prajadhipok's Institute)  
(<https://www.kpi.ac.th/>)  
英語・タイ語で質の高い研究書を出している。
- <英語>
- Silkworm Books  
(<https://silkwormbooks.com/>)
- White Lotus Books  
(<https://www.whitelotusbooks.com/>)  
英語で書かれたタイ関係の一線級の研究書は、主にこの2社から出ている。
- <タイ語>
- ฟ้าเดียวกัน [Fā Dieokan]<sup>4</sup>  
(<https://sameskybooks.net/>)
- สำนักพิมพ์มติชน [Samnakphim Matichon]  
(<https://www.matichonbook.com/>)
- Openbooks (<https://shop.onopen.com/>)
- เพชรประกาย [Phētprakāi]  
タイを代表する研究者のタイ語による書籍は、ฟ้าเดียวกัน [Fā Dīeokan] と สำนักพิมพ์มติชน [Samnakphim Matichon] の2社から出ていることが多い。

<sup>3</sup> タイ国内ではCentral World内のバンコク店を含む3店舗を展開している。「[海外店舗] 紀伊國屋書店ウェブサイト <<https://corp.kinokuniya.co.jp/location/foreign-store/>>

<sup>4</sup> []内はALA-LC翻字形(以下同じ)。

<sup>5</sup> “หนังสือ 100 เล่มที่เราแนะนำให้อ่าน เพื่อเข้าใจประวัติศาสตร์การเมือง และสังคมไทย,” 2020.9.10. The MATTER website <<https://thematter.co/quick-bite/recommend-100-books-about-thai/123071>>

<sup>6</sup> 近年注目を集めた研究書としては、王室ネットワークを分析した อาสา ศักกา, กว่าจะครองอำนาจนั้น : การคลี่คลายขยายตัวของเครือข่ายในหลวง ภายใต้ปฏิสัมพันธ์

<大学出版会>

- ทมมสารต์大学出版会  
(<https://www.thammasatpress.tu.ac.th/>)
  - ชุลาโรนคอน大学出版会  
(<http://www.cupress.chula.ac.th/>)
  - มหิดล大学出版会  
(<https://mupress.mahidol.ac.th/index.php>)
  - เชินไม大学出版会  
(<https://cmupress.cmu.ac.th/>)
- 大学出版会のなかでは、ทมมสารต์大学とชุลาโรนคอน大学の2つの出版会から出ているものが圧倒的に多い。

最近のタイ政治研究の基本文献としては、ウェブメディアのThe MATTERが紹介している2020年の推薦図書リスト<sup>5</sup>も参考になる。リストでは ธงชัย วินิจจะกุล [Thongchai Winitchakūn] 氏、ณัฐพล ใจจริง [Natthaphon Chaiching] 氏といった著名な研究者の著書を取り上げているので、これらを購入すれば基本的な文献は揃えられる。さらに各著者名と著名な出版社名で掛け合わせて新刊書を検索すれば、重要な文献は比較的漏れなく収集できるだろう。

近年注目を集めている研究テーマとしては、王室や王党派ネットワーク、政治と司法の関係、軍部、新興政党、SNSやデモといったものがあるので、これらに関する資料も収集候補となる<sup>6</sup>。これらは英語の文献も多く出版されている。

## (2) 辞書

厳密な意味を調べるには、タイ語での定義が書かれたタイ語辞典(タイ・タイ辞典)が不可欠である。また、タイ語には略語が多く、一見して理解できないものも少なくない。略語辞典が刊行されているので、併せて利用できるようにするとよい。

ชนชั้นนำไทย ทศวรรษ 2490-2530, นนทบุรี : ฟ้าเดียวกัน, 2021) や、政治と司法の繋がりを研究した Eugénie Mériaux, Constitutional Bricolage : Thailand's sacred monarchy vs. the rule of law, Oxford : Hart Publishing, 2022がある。

それぞれ出版社ウェブページは次のとおり。

<<https://sameskybooks.net/index.php/product/9786167667966/>>

<<https://www.bloomsbury.com/uk/constitutional-bricolage-9781509927692/>>

## (3) 学術誌

英語の学術誌は、京都大学東南アジア地域研究研究所（以下、「東南研」）に重要なものが揃っている。研究者が特によく参照するものとしては、*Journal of Contemporary Asia*【Z51-L130】<sup>7</sup>、*Journal of Southeast Asian Studies*【Z52-C229】<sup>8</sup>、*Asian Survey*【Z52-B168】<sup>9</sup>があり、ほかに主要誌として以下がある。

- *Journal of Developing Areas*【Z51-J474】<sup>10</sup>
- *Journal of Democracy*<sup>11</sup>
- *The Pacific Review*【Z52-E261】<sup>12</sup>

なお2006年以降、裁判所が判決により民選政権を繰り返し崩壊に追い込むなど、司法が政治に対して担う役割が強くなってきたため、政治、歴史に加えて、法学的視点の論文の重要性も増している。

また、学術誌のほかに、国際学会では発表者が提出した論文を製本し、プロシーディング（予稿）として配布しているが、これらは市場であり流通しないので、図書館で収集できると有益である。一部は学会ウェブサイトで公開していたり、研究者が個人的にAcademia.eduなどの研究者向けSNSで公開していたりすることもある。

## (4) 古い書籍

研究という点で言えば、新しい書籍は比較的容易に手に入るの、古い書籍の方が入手の面で問題となる。

例えば、研究に用いられる資料に葬式本というものがある。葬式本は、葬式の際に配布される故人の伝記であり、故人の人生について詳しく書かれている。国内では東南研が多く所蔵しているが、網羅的に収集しているわ

けではない。官僚、警察官、政治家などの葬式本は、最近注目度の高い人的ネットワークの研究に利用されている。

古い資料は、バンコクのクイーン・シリキット・ナショナル・コンベンション・センターで春と秋に開催される大規模ブックフェアや、大学周辺に出店を出す古書店等で購入可能であり、研究者は直に出向いて古書店との関係を築き、その後の資料収集に役立てている。ただし、研究者にも広く知られていない資料がタイ研究に関しては多く、研究者が私蔵している場合も多い。そうした資料について研究者から寄贈を受けるというのも、コレクション構築の有効な方法のひとつである。

## (5) 学位論文

修士論文・博士論文がタイ研究者の間ではよく利用される。特に古い時代は出版物が少ないため、これらが貴重な情報源となる。タイ国内の大学での博士号取得者はまだ多くないが、修士論文は大量に出ており、大学図書館に所蔵されているものを利用できる<sup>13</sup>。

## (6) 政府統計、その他の公的資料

政府統計は、タイ国家統計局ウェブサイト<sup>14</sup>で公開しているほか、現地の統計局で冊子体を販売している。

また、タイでは1997年以降、国家汚職防止取締委員会、法改革委員会など、独立機関<sup>15</sup>と呼ばれる公的機関が相次いで設立された。これらの機関は、様々な学術ジャーナルや報告書を出している。国立国会図書館でもタイ国会刊行の雑誌<sup>16</sup>は所蔵しているが、他機関のものも収集できれば蔵書に厚みが出る。

そのほか、最高裁判所の判決文は、要約であればインターネット<sup>17</sup>で入手できるが、全

<sup>7</sup> 国立国会図書館契約の電子ジャーナルでも利用可能。  
<<https://id.ndl.go.jp/ejournal/954925455973>>

<sup>8</sup> 国立国会図書館契約の電子ジャーナルでも利用可能。  
<<https://id.ndl.go.jp/ejournal/954925418018>>

<sup>9</sup> 国立国会図書館契約の電子ジャーナルでも利用可能。  
<<https://id.ndl.go.jp/ejournal/954925382050>>

<sup>10</sup> 国立国会図書館契約の電子ジャーナルでも利用可能。  
<<https://id.ndl.go.jp/ejournal/954921348264>>

<sup>11</sup> 国立国会図書館契約の電子ジャーナルで利用可能。  
<<https://id.ndl.go.jp/ejournal/954925591424>>

<sup>12</sup> 国立国会図書館契約の電子ジャーナルでも利用可能。  
<<https://id.ndl.go.jp/ejournal/954925271397>>

<sup>13</sup> 2017年時点での学位論文の公開状況については次のレポートも参照されたい。小林磨理恵「タイにおける学位論文の電子公開—タマサート大学の事例を中心に

—」『海外研究員レポート』2017, pp.1-5. <<http://doi.org/10.20561/00049828>>

<sup>14</sup> タイ国家統計局ウェブサイト <<http://www.nso.go.th/sites/2014/Pages/home.aspx>>

<sup>15</sup> タイでは1997年憲法に基づき、選挙委員会、国家汚職取締委員会等、人事や予算の面で独立性が保証された独立機関が設立された。その後、2007年憲法のもとで制度改革が実施され、独立機関の数は増加した。(外山文子「第6章 憲法改革と司法権—憲法裁判所と憲法に基づく独立機関の制度的問題—」『タイ民主化と憲法改革 立憲主義は民主主義を救ったか』京都大学学術出版会, 2020, pp.252-253.)

<sup>16</sup> รัฐสภาสาร, กรุงเทพมหานคร: สำนักงานเลขาธิการรัฐสภา. [Y745-ZS-53]

<sup>17</sup> タイ最高裁判所ウェブサイト  
<<http://deka.supremecourt.or.th/>>

文はインターネット公開されておらず、最高裁判所の図書室に行って閲覧している。これが国内で手に入ると役に立つ。なお、憲法裁判所の判決文は全文がインターネット<sup>18</sup>でダウンロード可能である。

#### (7) 新聞・雑誌

新聞は、どの研究分野であっても歴史を遡って研究する場合には不可欠だが、1990年代以前は国内で手に入らないものが多い。手に入る場合でも、蔵書に欠けがあるため、ある年代はA紙、別の年代はB紙といった具合で、同一紙を通して利用できないことが多い。タイの新聞は、赤シャツ派と黄シャツ派のような政治的立場によって論調が異なるので、複数紙を創刊号まで遡って、比較しながら利用できると便利である。

また、1970年代以前の新聞は、紙の劣化が激しく取扱いも難しいので、マイクロフィルム等で利用できる方が利便性が高い。タムマサート大学では、マイクロフィルムからのスキャンデータをUSBメモリにコピーできるサービスがあり、現状それが最も便利である。なお、最近の新聞記事はインターネットで読めることも多い。

個々の新聞について言えば、タイ語の新聞では、สยามรัฐ [Sayām rat]<sup>19</sup> 【Y745-SN-6】が比較的古くまで所蔵している機関が多いが、王党派知識人寄りのバイアスがかかっている。そのため、保守派に批判的な มติชน [Matichon]<sup>20</sup> 【Y745-SN-1】や庶民がよく読む ไทยรัฐ [Thai rat]<sup>21</sup> 【Y745-SN-7】などを併せて読む必要がある。タイ市民がよく読み世相を知るのに適したものとしては、ほかに เดลินิวส์ [Dēli niu]<sup>22</sup> 【Y745-SN-2】もある。

英字紙で代表的なものには、Bangkok Post<sup>23</sup> 【Z91-150】、The Nation<sup>24</sup> 【Z91-142】<sup>25</sup>がある。



図 アジア情報室所蔵 製本済タイ語新聞 (มติชน [Matichon] 【Y745-SN-1】 1991年)

雑誌も立場により論調が異なり、過去に遡って比較できると望ましいのは新聞と同じである。どの範囲まで収集するか判断が難しいところだが、政治研究では、大衆向け娯楽雑誌に掲載された政治関係の記事を利用することもある。

一般向けの雑誌としては มติชนสุดสัปดาห์ [Matichon Sut Sapdā]<sup>26</sup> 【Y745-ZS-47】、ฟ้าเดียวกัน [Fā Dieokan]<sup>27</sup> 【Y745-ZS-84】が最もメジャーな2誌で、ศิลปวัฒนธรรม [Sinlapawatthanatham]<sup>28</sup> 【Y745-ZS-80】も比較的よく読まれている。

#### (8) デモ隊のリーフレット等

政治研究に関しては、デモ会場で販売・配布されるリーフレット等も政治分析のために重要な資料となる。

2006年頃から、赤シャツ派と黄シャツ派の政治運動が盛んだが、特に赤シャツ派がデモ会場で様々な印刷物、CDなどを配布・販売している。これらはタイ国内の大学でも網羅的には所蔵していないと思われる。2015年以降の反クーデター運動、2020年以降の王室改革運動においても、関連するNGO等の団体がリーフレット等を配布している。なお、一部はインターネットでダウンロード可能なものもある。

<sup>18</sup> タイ憲法裁判所ウェブサイト <<https://constitutionalcourt.or.th/>>

<sup>19</sup> สยามรัฐ [Sayām rat] ウェブサイト <<https://siamrath.co.th/>>

<sup>20</sup> Matichon Online ウェブサイト <<https://www.matichon.co.th/>>

<sup>21</sup> ไทยรัฐ [Thai rat] ウェブサイト <<https://www.thairath.co.th/>>

<sup>22</sup> เดลินิวส์ [Dēli niu] ウェブサイト <<https://www.dailynews.co.th/>>

<sup>23</sup> Bangkok Post ウェブサイト <<https://www.bangkokpost.com/>>

<<https://www.nationthailand.com/>>

<sup>24</sup> The Nation ウェブサイト <<https://www.nationthailand.com/>>

<sup>25</sup> 紙での発行は2019年で終了。

<sup>26</sup> มติชนสุดสัปดาห์ [Matichon Sut Sapdā] ウェブサイト <<https://www.matichonweekly.com/>>

<sup>27</sup> ฟ้าเดียวกัน [Fā Dieokan] ウェブサイト <<https://sameskybooks.net/index.php/product-category/magazine/>>

<sup>28</sup> ศิลปวัฒนธรรม [Sinlapawatthanatham] ウェブサイト <<https://www.silpa-mag.com/>>

#### 4. 質疑応答

Q. 推薦図書リストを出したThe MATTERとはどのようなメディアか。

A. 社会問題などを取り上げるウェブメディアの一つ。タイでは2006年以降、The MATTER、**ประชาไท** (Prachatai)<sup>29</sup>などのウェブメディアが増えている。

Q. タイの公的機関の資料に関して、インターネットでの公開は進んでいるのか。

A. 近年デジタル化が進んでおり、過去の革命団布告、法律、統計書などがPDFで閲覧できるようになっている。ただし、全範囲を網羅しているかはわからないので、紙で所蔵しておけば保険になる。

Q. 葬式本は現在でも制作されているのか。

A. 現在でも制作している。過去の経歴、写真などをまとめた本で、著名人だけでなく、一般人でも作ることがある。基本的に自費出版で、葬式の際に配られる。部数も少ないが、古本市場に行けば売っていることがある。

Q. タイで提出された学位論文が、書籍として出版されることはあまりないのか。

A. チェンマイ大学に提出された**อาสา คำภา** [‘Āsā Khamphā]氏の王室ネットワークに関する博士論文は、その後、**ฟ้าเดียวกัน** [Fā Dieokan]から出版された。評価の高い一部の学位論文は出版されることもあるが、日本よりは少ない印象である。そもそも、タイの若手や中堅の研究者は、欧米や日本で博士号を取得している場合が多いので、タイ国内の大学に提出された博士論文の数自体が多くない。

Q. 日本では研究論文で修士論文が引用されることは少ないが、タイ研究ではよくあることなのか。

A. 特に古い時代を研究する場合、資料の制約が大きいため、修士論文を参照することが多い。

Q. 古本の収集は人脈によるところが大きいのか。

A. クイーン・シリキット・ナショナル・コンベンション・センターでの大規模ブックフェアでも購入するが、そこに店を出している古書店に連絡先を覚えてもらって人脈を広げ、資料の収集をお願いできる相手を確認している。

Q. 研究者のニーズとして、新しい書籍と古い書籍のどちらを図書館に求めているのか。

A. どちらも研究では必要だが、新しい書籍であれば、研究者は自身で購入する。近年は、Routledgeなどの大手出版社から出版されるタイ関連の出版物も増えており、入手はしや

すい。ただし、大学院生は経済的にそうもいかないで新しい書籍も図書館で利用できれば便利だ。

Q. 学術書は、英語のものとタイ語のものと比較して、どちらの方が研究水準が高いか。

A. 学術的にレベルが高いものは英語で出されることが多い。一次資料として使う資料や、古い時代で英語で書かれたものがない場合に、現地語資料が重要となる。

Q. タイで新刊書はどの程度の期間、市場で流通しているか。発行部数が少なくて買えなくなることはないか。

A. 通常、1~2年前に刊行されたものが売り切れて買えないということはない。最近の問題として、王室関連で不敬罪に抵触するとして発禁になるものが出てくるおそれはあるが、王室関連以外で学術的に書いてあるものについて、発禁になることはあまりないと思われる。

Q. タイ関係の学会のプロシーディングは英語で出されることが多いか。

A. タイ人、東南アジアの人が多い学会でも、国際学会は英語が基本なので、プロシーディングも英語で出される。

Q. タイの人々は、店頭ではなく、インターネットで書籍を購入することが多いか。

A. 最近インターネットに移ってきている。古書店に関しても、大規模なブックフェア以外では、インターネットでの注文、FacebookなどのSNS上でのやり取りが増えている。Facebookには、古本の売買を目的としたグループがあり、そこで取り引きしている人もいる。

Q. 国内でタイ関係の資料を探す際に、どこを利用することが多いか。

A. 国内であれば、アジア経済研究所図書館か東南研図書室を利用する。

Q. アメリカは、資料収集を研究者個人が主体で行う日本と異なり、大学図書館司書が資料収集のイニシアティブを取っているとされる。客員研究員として所属していたコーネル大学でもそうだったか。

A. コーネル大学図書館では、どのような資料が必要かについて司書の側からアプローチがあり、図書館が研究者をサポートするという自負があった。収集に当たっても、プロフェッショナルな司書が主導していたと思う。日本であれば、アジア経済研究所図書館が同じような態勢で収集を行っているのではないかと

(とやま あやこ)

<sup>29</sup> **ประชาไท** (Prachatai) ウェブサイト<<https://prachatai.com/>>